

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年10月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671500090
法人名	医療法人一桜会
事業所名	さくらのお家よしだ
所在地	鹿児島市東佐多町269-2 (電話) 099-245-5500
自己評価作成日	令和3年9月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和 3年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を豊かな自然に囲まれ、のどかな環境に恵まれたグループホームです。広い庭や小さな畑も備え、散歩や菜園も楽しむことができます。目の前の田園風景は季節ごとに模様を変え、庭には小鳥が飛び交い、四季を感じることができます。自治会に加入し、秋に行う夕涼み会(コロナ禍で実施を見合わせ中)にはご家族や地域の方々にも参加していただき、地域との結びつきを重視しています。医療面では、母体のクリニックと連携し、入居者様の健康管理に努めています。利用者のみなさんが、ユニット名のごとく、ゆったり、のんびりと過ごして頂けるように支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、姪良市との境界に近い東佐多地区の自然豊かな地域の一角に平成15年に開設されており、広い敷地には桜の木や柿、ビワなどの果樹、草花等が多く植えられ菜園もあり、また、芝生部分にはテーブルやベンチ等も設置されて、利用者は日常的に日光浴や散歩を楽しんでいる。周囲は農家や水田に囲まれ、少し離れた幹線沿いには幼稚園や商店、公営住宅等が立ち並んでいる。気になる騒音等は無く、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。

管理者及び職員は、法人及びホームの理念に沿って、利用者の尊厳や人格、想い、特性等を大切にしながら、その人らしい生きがいのある穏やかな日々が過ごせる支援に努めている。日頃の会話や面会、電話等で利用者や家族の意見、要望を丁寧に汲み取り、カンファレンスやミーティング等で協議して残存能力や自己決定を尊重した利用者主体のケアに取り組んでおり、本調査に係るアンケートのからも家族の信頼の厚さが窺える。

管理者及び職員は、日頃から気軽になんでも言い合える信頼と協力体制を構築しており、日常業務の途中や申し送り、ミーティング時に意見、要望を出し合って改善を図っている。勤務シフトには個人的事情や有給休暇の取得促進等も配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。また、法人やホーム独自の研修に加えウェブによる外部研修も取り入れてスキルアップに努めており、受講後はテスト等も行って修得状況を確認している。法人の給与体系や外部研修受講時の経費の助成制度の体制も構築されて職員のモチベーションに繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	日々のサービスが結果として理念に沿っているかを意識しながら業務に取り組んでいる。	利用者が「その人らしく生き生きとすこやかに楽しい暮らし」が営める支援をホームの理念に掲げ、法人の理念と共に事務室やリビングに掲示して周知を図っている。日頃の支援の中やミーティング、カンファレンスでケアの振り返り等を行って、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会への参加、地域住民も参加する夕涼み会の開催、中学生の福祉ボランティアの受け入れなど行っている。(コロナ禍で見合わせ中)	自治会に加入し情報の把握に努め、コロナ前までは地域の会合やイベント等に参加し、散歩や買い物時には地域の人の会話を楽しみ、家族・友人の面会、施設見学、ボランティア等を積極的に受け入れている。また、ホームの夕涼み会や避難訓練等の行事には地域の人々の参加が得られる関係が構築されているが、現在はコロナ禍のため買い物や外出、外食、ボランティア等の受け入れは自粛している。園庭及び周辺の散歩や農産物を頂くなどの交流や住民からの相談への対応は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議の中で認知症の話をしたり、認知症等見守りメイト連絡会に参加したりしている。(コロナ禍で見合わせ中)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、報告や検討を行っていたが、コロナ禍以降は開催出来ていない。	従来、会議は、家族や民生委員、消防団、地域住民等が参加して定期的に開催してきたが、コロナ感染症の予防に配慮して、会議の開催は中止し、資料配布も行っていない。先日、市の指導もあり、会議を再開するまでの間は利用者やホームの状況等の資料を委員に配布して意見を出してもらい、サービスの改善に繋げる意向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿あんしん相談センターの職員に運営推進委員をお願いし連携を図っている。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、運営やケアに係る相談、生活保護受給中の利用者（現在2人）の処遇に関する事項、感染症予防に関連する協議等を行って指導や助言をもらうなど、市担当者とは密に協力関係を築いている。市主催のネット会議や研修にも出席してサービスの向上に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束廃止委員会を設置し毎月会議を行っている。部署内で研修を行い、周知を図っている。	身体拘束や権利擁護、虐待をしないケアの取り組みについては計画的な法人及びホーム独自の研修の実施で周知を図り、ミーティングや毎日の申し送り時に振り返りや意見交換を行って拘束の無いケアに取り組んでいる、身体拘束適正化を目的とした身体拘束対策検討委員会も毎月開催し、権利擁護を目的に成年後見制度を活用中の利用者もいる。昼間は玄関等の施錠は行なわず見守りや寄り添いに努めて利用者の思いを汲み取り、不適切な言動が見られた時はその都度助言を行うなど、日頃から改善に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署内で研修を行い理解を深めている。日々のケアを振り返り、虐待につながらないように注意している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画に権利擁護を組み込んでいる。成年後見人が後見をしている入居者が居る。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や改定の際は口頭と文書で説明を行っている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>コロナ禍前は家族会等で意見や要望を述べる機会を作り、要望を聞き運営に反映させていた。現在は利用者や家族の声を、直接または電話等で聞いている。</p>	<p>利用者の思いは日頃の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からの意見や要望は面会や電話、手紙、家族会、写真等を添付したお便り等で利用者の状況を伝えながら把握して改善に繋げている。現在はコロナ禍のため家族会は中止し、イベントへの家族参加も控えてもらっているが、面会は来訪者のワクチン接種状況や健康状態を把握するチェックシートを作成し、感染予防を徹底しながら窓越しや玄関先で実施している。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の主任会やミーティング等で職員の意見を述べる場を設け反映させている。</p>	<p>管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築しており、日頃の業務の中や申し送り、ミーティング、人事考課時に意見や要望を把握し、必要に応じて個人面談も行って改善に取り組んでいる。ケアに関する助言やスキルアップを図るウェブ研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得促進や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに努めている。法人による、給与や外部研修参加時の受講料等の助成体制が確立されている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>処遇改善加算や、人事考課制度により対応している。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内に研修委員会を設置し定期的に研修を受けることができる。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	コロナ禍以前は同業者が開催するセミナーや交流会に参加する機会があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の要望が出やすくなるように環境づくりに配慮している。なるべく話を聞き、不安を取り除けるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面談を通じ聞き取りを行っている。信頼関係を構築できるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>関係部署との連携に努め情報収集を行いご本人・ご家族との面談に活かしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の知恵、得意なこと、知識などを引き出しながら、同じ生活者として接するように心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にお願いできることは委ねながら、一緒に本人を支えていることを感じてもらえるようにしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は、馴染みの方などが面会に気軽に来れる環境作りに努めていた。	利用者毎の馴染みの情報を把握して、通常は周辺の散歩や買い物、通院、一時帰宅、外食、墓参等を家族の協力を得ながら意向に沿って支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して、買い物や外食、外泊等は控えてもらい、家族とは短時間の面会や電話、手紙の取り次ぎに努めている。携帯電話を所有している利用者は、日常的に家族との会話を楽しんでいる。日光浴を楽しみながらの散歩では地域の人と挨拶を交わし農産物等を頂く等の交流は継続し、ドライブにより自宅周辺や馴染みの街並み、景色を楽しむなど工夫した支援に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が他者を気遣う、見守るなどの関係が出来ている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一旦退去されても、再入居が可能であることを伝え希望に沿うようにしている。本人が退去した後その兄弟が入居したり、その配偶者からの相談があったりする。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からそれらを把握し、困難な場合は表情や言動、家族からの情報などから本人本位に検討している。	利用者の日頃の会話や独自のサイン等から思いを汲み取り、ミーティングや申し送り等で協議して利用者主体の生きがいのある暮らしの支援を、家族の意向も伺いながら取り組んでいる。利用者が希望する趣味や食材の下処理、テーブル拭き等の取り組みを残存能力に配慮しながら個別に支援し、衣服の交換時には利用者自身が選択するような語りかけを行い、達成感や自己肯定感が得られるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係機関等から聞き取りや情報交換を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、申し送り、個別記録、職員間の情報交換、ミーティング等で行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との連絡を密にして、同時にカンファレンス、モニタリング等を行い、それぞれの意見やアイデアを反映し作成している。	ケアプランには、利用者や家族の意向を丁寧に聞き取り、主治医や理学療法士、看護師の指示やカンファレンス及びモニタリング時の職員の意見等を基に、残存機能や習慣、趣味等にも配慮した利用者主体の介護計画を作成している。利用者の状況変化時には実態に沿った計画に変更し、利用者や家族の理解も得ながら改善を図るケアに取り組んでおり、実施状況は申し送りやサービス記録、業務日誌等で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づき等は、業務日誌や個別のケア記録に記入している。申し送り、ミーティング等で情報交換しながら計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズには対応するように心がけているが、サービスの多機能化が出来ているとは言えない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりにそれぞれの地域資源を十分活用しているとは言えない。歯科医の訪問診療、地域住民との交流の場として夕涼み会への招待を行っている。(コロナ禍のため見合わせ中)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図りながら適切な医療を受けられるようにしている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な通院や月2回の訪問診療が実施され、他科受診も家族と協力して同行している。協力医療機関との24時間医療連携の体制を構築し、看護師が週1回来訪して衛生や健康管理を徹底しており、健康状態は家族にも密に報告することで利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎朝の申し送りや随時の連絡を通じて、法人の医療連携看護師や現場看護師と連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時は医療機関との情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の段階で重要事項説明書の中で重度化に対する指針、看取りに関する指針を説明している。状態の変化に応じて、かかりつけ医と連携しながら進めている。</p>	<p>重度化や看取り対応の指針を整備し利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ており、入所後も利用者の状態変化に応じて意向を確認している。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族の意向を繰り返し聞き取り、主治医や看護師と連携して可能な限り希望に沿った支援に取り組んでおり、これまで数件の看取りを実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生、急変に備え基本的な流れはマニュアル化し、戸惑う事がないようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災マニュアルを作成している。地域の方より緊急避難場所としての協力を頂いている。</p>	<p>夜間を含む火災発生を想定した訓練を年2回実施し消防署の協力も得られている。住民の訓練への参加はコロナ禍に配慮して要請せず、利用者と職員で実施しているが、緊急時には住民の協力体制が構築されている。日頃から避難経路の確認や災害の報道を基に意見を交わすなど防災への認識の共有に努めている。詳細な防災マニュアルを整備しており、自動通報装置やスプリンクラーが設置され、ラジオ、卓上コンロ等を備え、食糧品、飲料水、介護用品等も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持ったひとりの人として尊重し、接するよう心がけている。	利用者の人格や誇りの尊重は研修の実施やケアの振り返り、意見交換等で認識を共有し、利用者の生活歴や個性、習慣等にも配慮しながら自己決定を尊重した支援に努めている。居室やトイレ、浴室等はプライバシー保護に配慮した構造になっており、衣服の着脱や排泄、入浴時の声掛けは羞恥心にも配慮して適切な声のトーンや言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や願いを普段の会話の中から聞き取り、それに沿う様に支援している。自己決定を促すような対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいのか希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着る服を自分で選んでもらったり、似合いそうな服を職員が考えて決めたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の嗜好やアレルギー等を把握している。食事準備や片付け等、出来る事は参加して頂いている。	食事は利用者の何よりの楽しみで関心も高いことを念頭に、好みや栄養バランス、形態、季節感、疾病に伴う摂取制限等に配慮した基本のメニューを法人の栄養士が作成し、差し入れや菜園の野菜等も活用しながら調理している。利用者も簡単な食材の下処理やテーブル拭き等を楽しみながら行っている。季節の行事食や誕生会、敬老会等の慶事の特別食、手作りのおやつ、園庭でのお茶等、楽しみとなるよう日々工夫しているが、コロナ禍に配慮して外食や家族との会食は自粛している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事量や水分量を記録しスタッ フ間で情報共有している。不足 している場合は、代替え等を準 備して補える様に支援してい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は必ず口腔ケアを行っ ている。コロナ禍以前は、毎月 歯科衛生士を招いて勉強会を 行っていた。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	オムツは極力使わずトイレでの 排泄を心がけている。	各利用者の排泄パターンを把握し習慣に も配慮した声掛け等で、可能な限りトイ レでの排泄を支援している。利用者の状 態に応じた介護用品や方法等を介護計画 に反映させて支援しており、オムツから リハビリパンツに変わるなどの改善がみ られている。便秘の予防に繊維の多い食 材や乳製品、水分の摂取及び運動量等に 配慮し、主治医にも相談しながら対応し ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動、食事形態の工 夫をし、便秘予防に努めてい る。必要時は主治医に相談して いる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日、時間帯などは職員が決めているが、排泄の失敗時など必要に応じて入浴できるように心がけている。	週2回の入浴を個浴で支援しているが、排泄時の汚染等には、その都度、シャワー浴等で清潔を保っている。順番や温度、時間、習慣、同性介助、好みのシャンプー等は柔軟に対応しゆっくり楽しんでもらい、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には、無理強いしないで時間の変更や声かけ等の工夫で、利用者自身の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや、居室などご自分の体調や気分合わせて過ごしたい所で、自由にその日を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬剤情報提供書を確認している。症状の変化に注意し主治医との連携を密に服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況に応じて負担にならないよう、草取り・散歩・料理の下ごしらえ・洗濯物たたみなど手伝っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は、季節ごとにドライブやピクニックをしていた。ご家族で出かけられることもあった。	日常的に園庭やホーム周辺の散歩等を行い、ドライブにより自宅周辺や馴染みの街並みの景色を楽しむ等工夫しているが、コロナ禍の為、買い物や一時帰宅、墓参等の外出は控えてもらっている。また地域のイベントの殆どが中止され、ホームの行事も十分には実施できない状況であるが、園庭の果樹や野菜、草花を愛でたり、室内でのゲームやユーチューブの懐メロ等をテレビに送信して楽しむなど、工夫して気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布を所持し現金を保有している方がいる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族と電話で話したり手紙のやり取りを行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁画は定期的に変更し、玄関等にも毎日ではないが、花を生けて目で楽しんでもらうようにしている。また、リビング・脱衣所に温室時計を設置して快適に過ごせるようにしている。</p>	<p>広い園庭には多くの桜や果物の木が植えられ菜園もあり、ベンチも設置されている。利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは余裕あるスペースが確保されて明るく、動線や利便性に配慮してテーブルやソファ等が設置され、周辺の田畑の状況が望めている。随所に活花や利用者の作品等が飾られ、調理の音や臭いも感じられて家庭的で和やかな雰囲気となっている。清掃や整理整頓、空調等が徹底され、不快に感じる音や臭いもなく、利用者は四季を感じながら穏やかに過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング、ダイニングにてご自分の普段のだいたいの定位置がありそこでレクリエーションや他者との会話等、思い思いに過ごしていただいている。又、隣のユニットにもお互いに行き来できる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人様の使い慣れた物を居室に持ってきて頂いている。写真を飾ったり、居心地の良い居室作りに努めている。本人様の動きやすい配置に配慮している。</p>	<p>居室は昨年畳部屋からフローリング仕様に改装されており、日当たりが十分で明るく、ベッド（一部は利用者がレンタル中）、エアコン、押し入れを設置している。利用者の意向を確認しながら整理整頓等を支援し、自室を戸惑うことの無いように入口には鈴を取り付ける等、判別できるよう工夫されている。利用者は使い慣れたテレビや寝具、家族写真、亡配偶者の遺影等を持ち込み、また、自身の作品や頂いた物も飾る等、居心地良く過ごせる環境になっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレには入っているか否かわかるようにし、居室にも鈴をつけるなど本人にわかるよう、また自身の力で他者を呼べるようにしている。</p>	/	/	

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない